

日没前後の交通事故死 大幅増加

ビート輸送が、始まりました！ 十勝型事故の防止
管外からも多くのダンプ・トラックが、十勝管内に入っています
幹線道路・農道の交差点は、確実な一時停止と左右確認・・・
相手車両は、止まらないかもしれない！

通学路の交差点 横断歩道で小学生の列に車突っ込む

小1男児2人が軽傷

2016年10月21日 (金) 12:08

21日午前7時20分頃、新潟県の交差点の横断歩道を渡っていた登校中の小学生5人の列に、直進してきた男性会社員(45)運転の乗用車が突っ込み、先頭を歩いていた1年生の男児(6歳と7歳)2人がはねられた。2人は市内の病院に搬送され、顔面打撲などの軽傷を負った。児童たちが通う小学校によると、現場は通学路で、同校では事故を受けて「交差点を横断するには十分に注意するようあらためて児童に徹底したい」としている。

気のゆるみ スピード出し過ぎていませんか？

交差点進入時は・・・

- 交差点には、必ず「人」や「自転車」や「車」がいる
- 相手は「避けない」、「止まらない」・・・かもしれない

交差点 信号が、「青」に変わった！ チョット待て！ もう一度、安全確認しよう

バックは、『カメが歩くスピードの気持ちで！』

車間距離を十分に！ 追突を未然に防止

スリップ事故ご注意！ 冬タイヤ早めに装着を

スリップ事故は対向車線にはみ出して正面衝突するケースが多い

山間部やトンネルの入り口の日陰は凍結しやすい

スピードの調整や急ブレーキ、ハンドル操作に気をつけて！

2016年10月22日

◆過去5年死亡事故 11、12月に集中 56%

スリップによる死亡事故が多発するシーズンに入り、道警が注意を呼びかけている。スリップ事故は対向車線にはみ出して正面衝突するケースが多く、過去5年間の冬期(11~3月)に道内で起きたスリップによる死亡事故は、11月と12月に56.3%が発生している。昨年12月には、男女5人が死傷するスリップ事故も起きており、道警は早めの冬用タイヤ装着や安全運転を訴えている。死亡事故以外にも含めると、スリップ事故の73.2%が対向車線にはみ出すなどした正面衝突だった。佐呂間町の道道では昨年12月、介護送迎車が凍結路面で対向車線の軽乗用車と正面衝突し、男女5人が死傷した。11、12月は日中の気温が0度を上回っても、夜間は氷点下になる日が多く、路面が凍結しやすくなる。雪の降り始めの時期は、路面が凍結してでこぼこになり、積雪前の感覚で速度を出すドライバーがスリップして、事故を起こす危険性が高まるという。

同課は「山間部やトンネルの入り口の日陰などの路面が凍結しやすい場所では、スピードの調整や急ブレーキ、ハンドル操作に気をつけてほしい」と、注意を呼びかけている。

ハイビームの使い方、「交通の教則」に明記へ

夜間の死亡事故抑制につなげたい

○ハイビーム ⇒ 100m先まで照らせる

○ロービーム ⇒ 40m先までしか照らせない

交通量の多い市街地を除き、ハイビームを使うべき

2016年10月20日(木)15時49分

警察庁は、交通ルールやマナーを解説した「交通の方法に関する教則」にハイビームの使い方を明記する方針を決めた。定着していないハイビーム走行の必要性をドライバーに理解してもらい、夜間の死亡事故抑制につなげたい考え。改正教則を今月下旬に公布し、来年3月に施行する。

道路交通法は、100メートル先まで照らせるハイビームと40メートルのロービームの使い方について、対向車や先行車がいる時はロービームに切り替えると規定。新教則では、歩行者らを早期に発見するため、交通量の多い市街地を除き、ハイビームを使うべきだと明記。対向車と行き違う時や、他の車の直後を通行している時は、ロービームへのこまめな切り替えを求める。昨年交通事故死者は4117人で、状況別では、歩行中の事故が最多の1534人。うち約7割が夜間に起きていた。なかでも、交通量の比較的少ない郊外で夜間、発生した車と歩行者の死亡事故は164件あり、96%の157件がロービームだった。全国で夜間の歩行者の死亡事故が多発しているうえ、ハイビーム走行を基本とする考え方が周知されていないことが教則改正の背景にある。

午後4時 交差点、自転車と衝突 ひき逃げ容疑逮捕

◇もしも、もしも、もしも、・・・のときは・・・まず、救護◇

2016年10月21日 08:59

栃木県の警察は20日、自動車運転処罰法違反(過失運転致傷)とひき逃げる疑いで、パート従業員の女性(27)を逮捕した。逮捕容疑は同日午後4時14分ごろ、栃木県の市道で軽乗用車を運転中、交差点の右から来た、無職男性(70)の自転車に衝突、頭などにけがをさせ、そのまま逃げた疑い。